

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎良質たい肥の生産・利用で、自給飼料の安定確保に努めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～分娩時の事故防止～

分娩予定牛は清潔で寝起きがしやすい環境で飼育する。分娩は、経過を注意深く観察しながら、場合によっては内診を行うほか、カルシウム剤の投与やけん引等、適切な処置を行う。

◇ 肉用牛 ～繁殖牛の退牧後の飼育管理～

舎飼い開始時は、飼料を急に変えないようにする。配合飼料の増飼いは、分娩2か月前から概ね離乳までの期間に行うが、過肥にならないよう給与量を調節する。また、蹄の伸び過ぎは牛のストレスや、疾病の原因となるおそれがあるため、削蹄を適切に行う。

◇ 豚 ～冬期間の飼育管理～

寒さによる発育の停滞や飼料効率の低下を防ぐため、すきま風の防止や適切な保温など防寒対策を徹底する。特に離乳直後の子豚は30℃程度の温度が必要なため、温度管理に注意する。また、呼吸器病等のリスクを軽減するため、密閉状態にせず、室温を確認しながら換気を行う。

◇ 鶏 ～高病原性鳥インフルエンザ等発生防止対策～

冬期には高病原性鳥インフルエンザ等の発生リスクが高まるので、異常鶏の早期発見や鶏舎への野生動物の侵入防止に努めるとともに、防鳥ネットの点検や消毒など、ウイルスの侵入防止対策を徹底する。農場への出入りの記録は、少なくとも1年間保存する。

◇ 草地・飼料作物及び環境保全 ～良質たい肥の生産と適正施用～

良質たい肥生産のため、副資材の添加により通気性を確保するとともに、切り返しを適切に行い、発酵を促進する。生産したたい肥は、肥料や土壌改良資材として、積極的に草地や飼料畑で利用する。



報道機関用提出資料

担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 元山技師
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4817
報道監	農林水産部 高谷次長 内線 4967